車塚遺跡（くるまづかいせき） 地元説明会資料

車塚遺跡の古墳群を北東より見下ろす　手前から東名高速、岩津団地が見える。岩津団地手前の竹林が車塚遺跡から続く台地の先端部

日時　平成 23 年 1 月 8 日（土）　午前 10 時～正午

場所　岡崎市岩津町　車塚遺跡調査区

主催　（公益）愛知県教育・スポーツ振興財団　愛知県埋蔵文化財センター

支援　テイケイトレード株式会社

調査の経緯について

県道岡崎足助線道路改築工事に伴う事前調査として、愛知県建設部より愛知県教育委員会を通じて愛知県埋蔵文化財センターが委託を受け、発掘調査を実施しております。車塚遺跡の調査は平成 20 年度より始まり、今年度は 3 年目となります。過去の調査では、縄文時代、弥生時代末～古墳時代初頭、古墳時代後期～古代の竪穴建物や掘建柱建物等の遺構が確認されています。

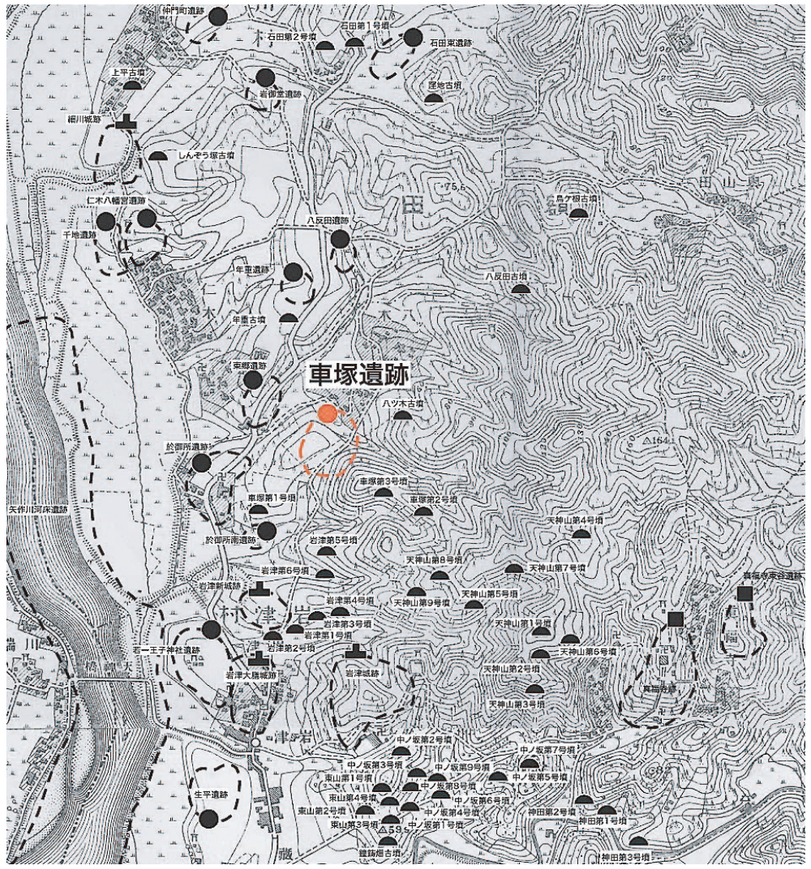
今年度の調査は調査面積 2300 ㎡、平成 22 年 10 月より開始し、平成 23 年 2 月で終了予定です。

車塚遺跡と周辺の遺跡について

車塚遺跡は、天神山からのびた舌状台地上に位置しています。現在は東名高速道路があるので分かりにくくなっていますが、今回の調査区から岩津団地の方向に台地がのびています。この台地の裾の西側には於御所川が流れ、於御所川の西側には昭和 30 年代～40 年代にかけて調査が行われた於御所遺跡・東郷遺跡があります。

また、車塚遺跡周辺で、今回発見された古墳と同じ古墳時代後期に属す古墳は、いずれも昭和 30～40 年代に調査された岩津古墳群、天神山古墳群があり、その他周辺に多数見られます。

最も近い車塚古墳群は、発掘調査は行われていないものの、同じ丘陵・台地上に属すことから、今回発見された古墳群も車塚古墳群に関連の深いものと考えられます。



明治 24 年旧陸軍陸地測量部 2 万分の 1 地形測量図「上野村」「岡崎」より（図上 1cm が 200m に相当）

今後の発掘調査

まだ調査をしていない弥生時代後期の方形周溝墓や弥生時代後期の溝の調査、石室がまだ確認できていない 8 号墳の調査、1 号墳～7 号墳の墳丘構造の確認の調査を中心に行っていく予定です。新たな発見があれば、愛知県埋蔵文化財センターのホームページ（http://www.maibun.com/top/）でお知らせいたしますので、ぜひご覧下さい。

2010 年度車塚遺跡発掘調査　主な遺構・遺物（図の上が北となります）

今年度の車塚遺跡発掘調査で確認された主な遺構は、古墳時代後期（７世紀代）の古墳が８基、内訳は円墳が 6 基、方墳の可能性があるもの１基、小石室と呼ばれる小さな石室を持つ古墳（墳丘形状不明）１基あります。弥生時代後期の遺構は、方形周溝墓１基、溝１条です。弥生時代後期の方形周溝墓・溝は、昨年度の調査で発見されていた連続部分が今年度も見つかりました。

溝（弥生時代後期）

これから調査する予定です。弥生時代後期の溝と思われます。昨年の調査で一部が見つかり、今年度の調査区に続いています。

方形周溝墓（弥生時代後期）

これから調査する予定です。
弥生時代後期の四角の（方形）溝（周溝）が巡ったお墓と思われます。
昨年の調査では 2 基検出されており、車塚遺跡では３基目となります。

４号墳（古墳時代後期）

わずかに残った石室としっかりとした周溝を確認しました。元は円墳だったようですが、周溝が 3 号墳と 5 号墳に接する部分で途切れるので、3 号墳・5 号墳と比べると新しい古墳と考えられます。

３号墳（古墳時代後期）

石室の床と側壁の一部が確認でき、石室は側壁が内湾する「胴張り形」と呼ばれる形をしています。円形に周溝が残っていましたので、墳形は円墳と考えられます。

２号墳（古墳時代後期）

「小石室」と呼ばれる石室を確認しました。
かつて墳丘はあったようですが、その形・大きさなどはよくわかりません。
1 号墳の周溝の上に重ねるように造られていることから、1 号墳より新しいと思われます。

１号墳（古墳時代後期）

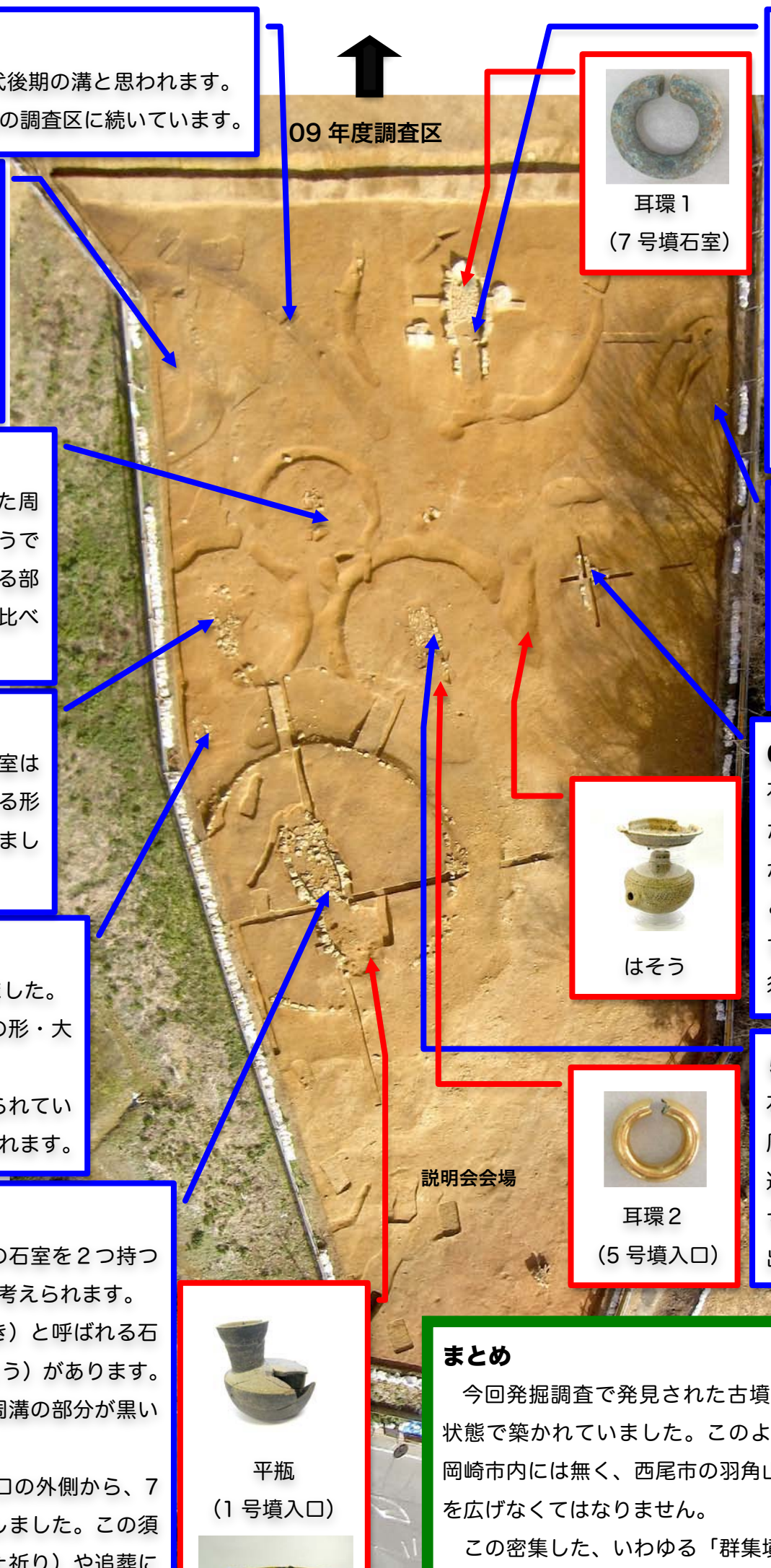
「複室」構造と呼ばれる前室・後室の石室を２つ持つ古墳。墳丘は直径 14m ほどの円墳と考えられます。

周囲には外護列石（がいごれっせき）と呼ばれる石が並び、さらに外側に周溝（しゅうこう）があります。調査区の壁際や土層観察用の畦には周溝の部分が黒い土となっている箇所があります。

遺物は石室の中には無く、石室入口の外側から、7 世紀後半と考えられる須恵器が出土しました。この須恵器を墓前祭祀（墓の前で捧げられた祈り）や追葬に用いられたもの、あるいは本来石室にあったものが掻き出された、と考えるかどうかで 1 号墳の年代については大きく変わることになります。

石室は、奥壁が抜かれていますが、形・大きさともに、今は無い「岩津 2 号墳」とよく似ています。岩津 2 号墳の築造年代は、6 世紀末頃と 7 世紀後半という説があり、この 1 号墳も石室の形は 6 世紀末頃に遡る可能性はあります。

この石室が古く遡るものであるかどうかは今後も検討する必要があります。



耳環１
（7 号墳石室）

はそう

耳環２
（5 号墳入口）

平瓶
（1 号墳入口）

高杯
（1 号墳入口）

須恵器杯蓋
（1 号墳入口）

７号墳（古墳時代後期）

今回の調査の中では最も残りが良い石室があります。石室の形は「胴張り形」と呼ばれ、この地域の古墳時代後期における特徴的な形をしています。しかし周溝は石室の北側では確認できませんでした。

周辺の岩津古墳群や天神山古墳群には同様の形を持った石室が多く見られます。石室内から「耳環１」が出土しました

８号墳（古墳時代後期？）

周溝がありました。元は円墳だと思われます。石室は調査区のフェンス際にわずかに残っている可能性もあり、これから調査をする予定です。

６号墳（古墳時代後期）

石室の床と側壁の一部が確認できました。周溝は途切れて西と北側のみ見つかりましたが、溝の内側が直線的なことから「方墳」の可能性も考えられます。西側の周溝からは「はそう」など須恵器が多く出土しました。

５号墳（古墳時代後期）

石室の床と壁の一部が残っています。周溝は６号墳の周溝に接する部分では途切れ、６号墳より新しいと思われます。石室の入口付近から「耳環２」が出土しました。

まとめ

今回発掘調査で発見された古墳群は、限られたスペースに密集した状態で築かれていました。このような密集状態で発見された古墳群は岡崎市内には無く、西尾市の羽角山古墳群（西尾市上羽角町）まで範囲を広げなくてはなりません。

この密集した、いわゆる「群集墳」は、それぞれの古墳の被葬者（葬られた人）間の人間関係や墳墓を築いた土地の立地（なぜここに造成する必要があったのか？）など多くのことを想像させてくれます。

残念なことに、古墳そのものは大きく破損したものが多く、石室からの出土遺物もわずかなため、この古墳群が７世紀代とは推定できますが、それぞれの古墳の詳しい時期については証拠が不足しています。

しかし、過去の周辺における調査では見つかっていなかった古墳の周溝や「小石室」の発見は、昭和 30～40 年代に比べて発達した現在の発掘調査の方法に依る部分も大きく、現代の発掘調査の意義を示していると考えることができます。

（☆今回の古墳の●号墳、は「仮」の番号で、今後変更することがあります）

溝（弥生時代後期）
7号墳
8号墳
方形周溝墓
（弥生時代後期）
4号墳
3号墳
6号墳
5号墳
2号墳
1号墳
0
10m
写真に多少ゆがみがあります。

はそう（６号墳）

平瓶（１号墳）

高杯（１号墳）

高杯（７号墳）

耳環（左５号墳・右７号墳）

一石五輪塔（１号墳）

蓋（１号墳）